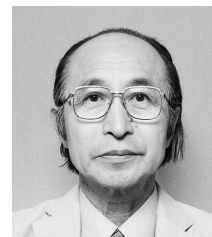


挨拶

理事長退任にあたって

前理事長

宮田 幹夫*



本学会が平成4年4月4日に石川先生、安孫子先生、田邊先生を中心として旭川で産声を上げた当初から石川理事長の下で事務局長を務めさせて頂き、石川理事長退任とともにその後を追い4年間理事長を務めさせて頂きました。

本学会は、臨床環境医学という、これまで本邦に無かった概念の学会です。多くの疾患が環境と関わっていることは明白であっても、その研究には非常に困難を伴い、学際的な多領域の方々との協力が要求されます。境界領域と言ってもよい領域です。そして、過去14年間に、シックハウス症候群など、多くの問題を提示、解決に寄与してきていると思われます。化学物質的環境とともに、電磁波、音などの物理学的環境や生物学的環境は、益々これまで人類にとっての未知なる領域へと向かって行きます。本学会活動への社会的要請は今後更に高まると思います。このような社会的環境の変化に対して、私が十分その責務を果たしたかについては、忸怩たるものもありますが、会員の皆様方のご努力下、本学会は徐々に発展してきており、学会の発表内容も、雑誌掲載論文の内容も、間違いなく豊かになってきております。

本学会の研究内容は、そのまま社会的活動へ直結するものでもあります。新理事長相澤好治先生は公衆衛生学会の重鎮でもあり、本学会の今後の発展と社会への寄与はさらに大きなものとなると思われます。

最後となりましたが、私が恙無く任期を終えることが出来たことは、前理事長をはじめとする理事の先生方、歴代の学会長の先生方、そして会員の皆様方をはじめとする多くの方々のお力添えの賜と、この場を借りて心より御礼申し上げます。

*北里研究所病院臨床環境医学センター客員部長

挨拶

新理事長に就任して

理事長

相澤好治



初代石川哲理事長、二代目宮田幹夫理事長に引き続き、三代目理事長に就任することが、平成18年度日本臨床環境医学会総会で承認されましたので紙面を借りてご挨拶申し上げます。本学会の発展に尽力された両理事長の後を継いで、更なる発展を図るため微力を尽くす所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

労働衛生学を専門としている小生は、石川哲北里大学名誉教授からのお誘いで、第2回本学会から参加・発表させて頂くようになりました。本学会の主題の一つはシックハウス症候群と化学物質過敏症ですが、その分野に興味を持ったのは、北里研究所病院に環境医学センターができて、厚生省の班会議に参加して色々な情報を得るようになってからです。そのうち同センターの外来を月一回担当するようになり、患者さんの訴えを聞くようになると、本疾患に多様性のあることが分かってきました。シックハウス症候群の臨床的分類と、化学物質過敏症の客観的診断法の開発が小生にとって現在の課題です。最終目標は本疾患の予防で、多様な病態を持つ本疾患に対して、それぞれの予防対策が必要と考えています。

環境と人との関係は極めて重要であり、人の健康の確保を目指す本学会の使命は大きいものと考えています。化学物質は人の生活に大きな貢献を果たしていることは言うまでもありませんが、感受性の高い人にとっては耐えることが難しい要因として作用します。人の感受性と環境要因の影響との関連を明らかにすることが、問題解決に繋がると思っています。環境要因を研究する他学会との交流も活発に行い、本学会の学際的研究を発展することができれば幸いです。会員諸氏のご協力をお願いいたします。

2006年7月

略歴

- 生年月日 昭和21年4月7日
- 昭和46年 慶應義塾大学医学部卒業
- 昭和50年 慶應義塾大学大学院医学研究科修了（内科学）
- 昭和50年 米国ブラウン大学研究員
- 昭和53年 慶應義塾大学助手
- 昭和55年 北里大学医学部講師（衛生学公衆衛生学）
- 昭和58年 北里大学医学部助教授
- 平成6年 北里大学医学部教授
- 平成18年 北里大学医学部長